漏水調査　よくある質問　Q＆A

Q1　配管長の計測は漏水発生中でエアーが配管内に混入した場合でも距離計測可能ですか？
A：　管路長計測は、完全に配管内の水を抜きホワイトノイズ法にて測定するものです。

Q2　漏洩箇所確認において、複数の漏洩が同系統の場合でも、距離測定可能ですか？
A：　基本的に同系統において　、最大に漏れている箇所一箇所です。

Q3　小さな漏水でも測定可能とありますが、100㎜の配管にて1㍑/分程度でも測定可能ですか？
A：　センサー取付け位置が50m以内であれば可能です。(現場の状況により異なります)

Q4　測定に対し、限界距離はありますか？
A：　50m以内　メーカーが示している距離は、100mですが経験上50mです。
(現場の状況により異なります)

Q5　見積りの備考欄に20㎜のボーリング(穴)をあけると記載がありますが、何のための穴ですか？
A：　漏水箇所確認のため、配管に音聴棒を近づけ噴射音を確認するためです。

Q6　上記穴ふさぎに専用ゴム栓にて塞ぐとありますが、その後の処理方法を教えて下さい。
A：　路面上で漏水箇所と判明した場所に穴をあけるため、基本的に修理時に必要な掘削範囲内であり、修理時に復旧できます。ただ、穴をあけた場所が漏水箇所でない場合や漏水調査に苦労した場合、ゴム栓のままの処理となります。(現場の状況により異なります)

Q7　漏水調査特定の確度について教えて下さい。
A：　100％　(現場の状況により異なります)　騒音・設備機器音等

Q8　コンプレッサーでの加圧圧力について教えて下さい。
A：　最大0.8MPa

Q9　コンプレッサーにて0.80MPaを加圧した後、漏水量が増えたりしませんか？
A：　現場の状況に応じて、空気圧を減圧し調査しています。
配管が腐食してる場合や劣化が激しい場合、漏水量が増える可能性はあります。

Q10　今回の見積りは、相関式(センサーロガ式)での漏水探査方式ですか？
A：　漏水箇所を発見することが目的であり、調査方法は多種多様です。すぐに発見できる場合、相関式(センサーロガ式)を使わない場合もあります。

Q11　漏洩箇所のデーター処理は持ち帰りでなく、その場で漏洩箇所がわかるのですか？
A：　現場処理です。